

寂滅為樂 横山さんの遺信 木畑龍治郎



拝啓陳者 私儀余命遂に尽き本日死去候、生前は誠に一方ならざる御厚誼御高配相蒙り先づは平凡大過無き生涯を了り候次第茲に最後の御挨拶々々御厚礼申上候尚葬儀は不取敢近親により密葬追って郷里に埋骨の筈に候 敬白
十月十二日
神戸市須磨区関守町三ノ三一
横山 正躬

私は近頃、こんなにも深い感動を受けたためしが無い、たとえば襟元から水を浴びせられた様に全身の神経がきゅっと引き締まる様な緊張を覚えた……。

十月十二日横山正躬翁の訃報を受け、一とうとう横山さんも亡くなられたか……。「私は短いこの一言に無量の哀惜をこめてしばし暗然とした。行年八十八才「短けい」の灯が心ない風にふっと消え一縷の白煙がひそやかに虚空に流れて行った、様に横山さんはそんなにも物静かに大生涯をとりられた。

明日は告別式に参列して最後のお別れを申し上げ様と思つて居たその朝、一通の封書が届いたのを手にして私は愕然とした。まぎれもない横山さんの筆跡ではないか、何時もの端正な毛筆の墨痕ではないか、私は一瞬狼狽して咄嗟の判断に迷いつつ封を切った。

で御返事を出せませんが残念です。私の名を書いた下さったその御手も冷たくなりましたね、もう御声を聞く事も出来ませんが寒くなりますから気をつけてゆっくりおやすみになって下さい」

私は自分の言葉に酔って居る内に棺の中の横山さんの寝顔をありありと見た様な気がした。

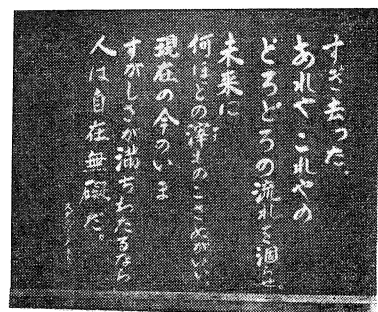
尺水の先尉沢村亮一氏はいみじくも「わしも横山さんから冥途の頼りを頂いた」と云わる。云い得て頗る妙、眠りの中の翁もさぞや我が意を得たりとほほ笑んで御座る事であろう。翁の事跡を語るには余りにも広大にして茫洋到底紙数のよくする処ではない。九十年の御生涯は直に明治百年史と共にあり、鈴木商店興亡史の一こまである。高知県長岡郡(今の南国市)の産、東京高商(一橋大学)時代の保険学を専攻してこの道一すじを歩み続けられた。郷土の先尉金子直吉翁に嘱望されて鈴木商店に入社、関西損保業界の権威として鈴木商店亡き後も名かくれもなかつた。

さもあらばあれ、九十年の大涯を全うせられし事こそ翁の最高の傑作であり、我等俗衆のよく追隨する処でない。只一つ思い出話しを書き添えた

い。昔、鈴木商店華かなりし頃、盆暮れのボーナス時には必ずと云つてよい程横山さんは別に部下の我々に賞与のお裾分けを下された。私は偶然にもその包紙の封筒を三枚、今でも手許に保存して居る。辰巳会が発会して間もなく私は横山さんにその包紙を御見せした。表には壮年の日の横山さんの達筆が今尚鮮かである。当時としては驚くほどの高額の高高が私の手で添書してある。「何かのはずみで書棚の隅に残って居りました。今となってはかけ替えのない記念品です。御覧の後は又永久に保存をさせて下さい……」横山さんは案の定、童顔をくすして喜んで下さった。

「よくそんな物を大事に残して居て呉れたのう。わしの事忘れんで居て呉れたのかい……」何うして、何うして忘れるものですか。否既に横山さん亡い今となってはあの時の声音が今更の様に鮮かに耳朶を打って甦って来る。兄弟子の村井順三とは常に横山さんに面と向つて親分と呼びつづけて来た。その親分も今や亡い。

五七日の中陰忌に沢村さんのお供をして須磨のお宅へお参りした。十一月も半ばと云うに珍しく温い小春日和であった。方尺の



禅語板 四條大宮法雲寺で

小田嶋修三氏を悼む

…神鋼電機の生みの親、育ての親…

田中卓次 (神鋼電機 顧問役)

小田嶋さんは大正六年、神鋼電機の前身帝國汽船株式会社鳥羽造船所に入社になり電機事業を創設され、以来幾多の困難を克服して神鋼電機今日の基礎を確立されたのである。以来五十余年、氏の電機事業に捧げられた全生涯は神鋼電機の歴史といつても過言でない。吾が社の生みの親であり育ての親である。

小田嶋さんは常に研究開発に力を入れ、日本の他の大電機企業が注目していない特殊機器に取り組み、蓄電池運搬車、ポットモーター金銭登録機、航空機用電製品等主なる製品を完成された。特にポツ



小田嶋さんと孫さんを見る

トモータについては全魂を傾倒し吾が国人絹界の隆盛に寄与され、藍綬褒章を受けられたことは周知のことである。帝人の久村清太氏(当時専務取締役)が独乙シームス社で、鳥羽電機のポットモータの話を知り、鳥羽電機の海外迄知られていくことを知って更めて再認識された由である。

小田嶋さんの思い出は限らないが非常に人情に厚く、部下を可愛いがり、あくまで信頼し其の面倒をよく見られた。私など日常業務は勿論、家庭生活まで色々と恩恵を受けた。初めて長途出張の時などは、小田嶋さん自ら列車時刻表を調べ発着駅の時刻、宿泊場所等まで詳細に手を取るように御指導を頂いたものである。よく部下を信頼し、相当重要な仕事までまかされた。一度指導を受けたものは誰でも自分が一番信頼されていると思ひ、業務に精進したものである。

戦後財界追放を受け淋しい生活を送られていたが解除後は吾が社の顧問役として御指導を頂くほか、鳥羽商工会議所が設立されるや高齢にもかかわらず其の会頭として地方産業の発展に終生を捧げられた。又鳥羽ロータリークラブの設立に尽力して、其の初代会長となり、或は鳥羽にキリスト教会の無いのを残念に思ひこの建設に八方努力して立派に完成されるなど地域社会のため大いに貢献された。この数々の功績に対し叙勲並びに鳥羽市より名誉市民の称号を贈られたのである。

この偉大な指導者の先輩を失い、神鋼電機の失うところ甚大である。氏の功績を偲びこれに恥じないようさらに発展せねばならぬことを痛感する。

一般 a/c 収支表

43.7.1~43.11.30

収入の部		金額	支出の部		金額
前期繰越	金	47,646	東京支部経費	金	150,000
現預	金	440,926	たつみ誌印刷及切手	代	55,000
預富	士	4,905	旅費	及	213,635
三和	銀	213,331	例	難	108,440
仮払	行	31,200	次	費	125,400
43/上期	金		繰越	金	45,571
廣告代	金	600,000	現預	金	451,061
(帝人.神鋼.日商.太陽)	費	76,500	ケ	金	965
43.10	例		替	金	4,905
利息	収	69,937	振	金	298,268
利	入		富	金	31,200
			三	行	
			仮	行	
			払	金	
合	計	1,484,445	合	計	1,484,445